

# 編集者からみた大学教科書

浦山 毅（慶應義塾大学出版会）

# 編集者が考える理系教科書

- 体系化されている
  - 論理的である
  - 断片的な知識ではない
- 独習可能である
  - わかりやすい解説
  - 練習問題と参考図書
- 専門書や学術論文への橋渡し
  - 全員が学者になるわけではないけれど…

# 教科書としての要件

- 安い定価
  - たくさんつくる必要性
- 安定供給
  - 在庫管理の難しさ、出版社の存続
- 内容の更新
  - 正誤表のレベルか、書き替えのレベルか

# 教科書企画の難しさ

- 大部数の使用が減った
  - 教養課程の廃止、大学カリキュラム多様化
- 大学新生のレベル低下
  - 内容減、飽きさせない工夫が必要
- 書き手不足
  - 専門の細分化、多忙、低い評価など
- 新たな課題
  - 社会との接点、生涯教育など

# 出版における収支のしくみ

- 1000円の本の利益配分とは
  - 出版社の取り分は 700円
- 初版と増刷で利益が変わる
  - 初版の場合： 利益 20万円
  - 増刷の場合： 利益130万円
- 安定した出版社の条件
  - 増刷できる本をたくさん有する
  - 多様な編集者を多く抱える

## 1000円の本の内訳



100

300

300~400

200~300

取次 80  
書店220

## 本の収支のしくみ

A5判・256頁・定価2400円・初版部数1250部の場合

収入

売上げ300万円 (=2400×1250)

支出

初版

印税	流通費	打合せ	制作費① 版下作成	制作費② 印刷製本	利益
30万円	90万円	10万円	100万円	50万円	20万円

増刷

印税	流通費	制作費② 印刷製本	利益
30万円	90万円	50万円	130万円

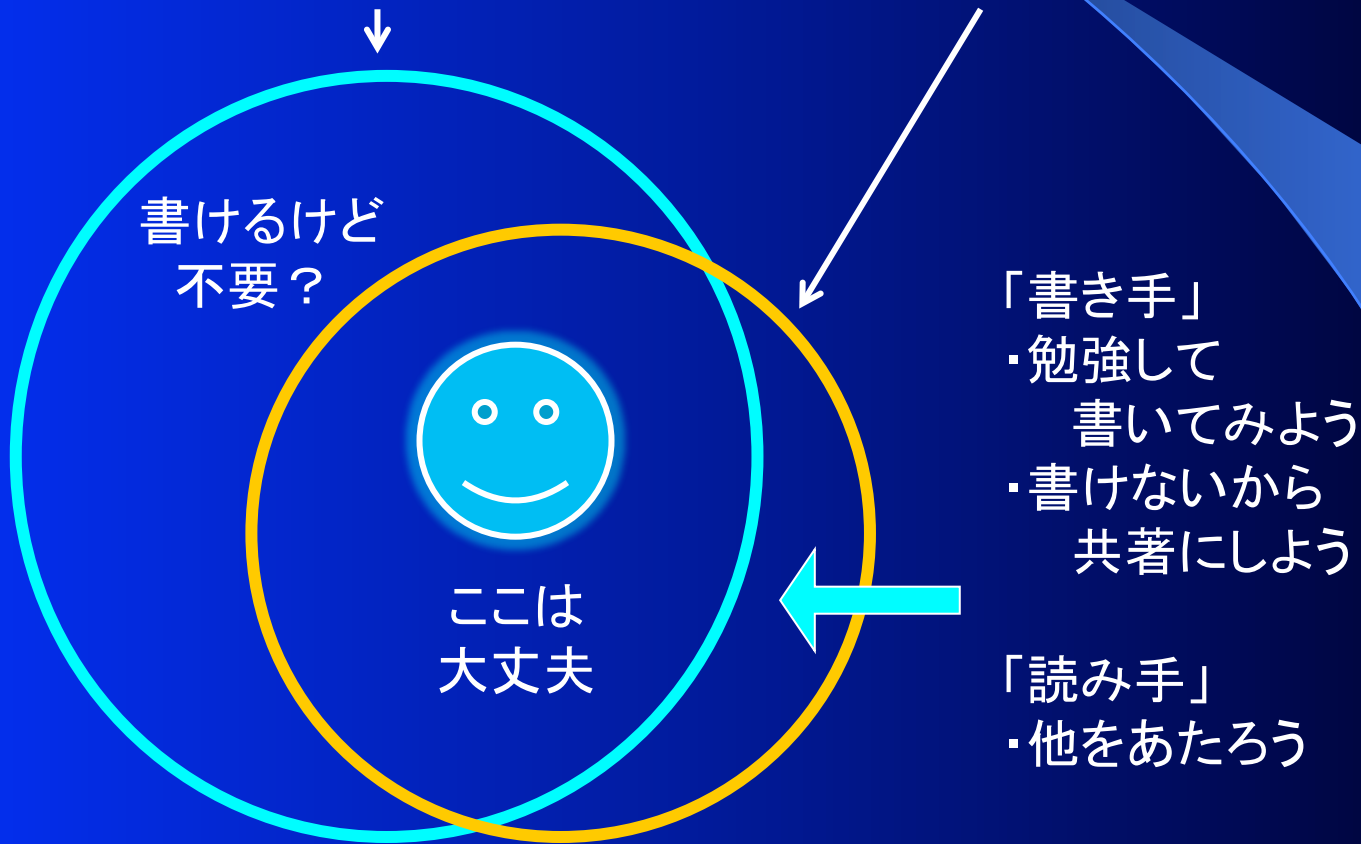
# 編集者の役割

- 需要の見極め／書き手の発掘
  - 大学学部・大学院、専門学校、企業
- 企画を通す
  - 社内の科学コミュニケーション
- 執筆者支援
  - スケジュール管理、再編集など



# 「書き手」と「読み手」の関係

書き手の守備範囲 ⊃ 読み手が知りたいこと



# 電子書籍の現状と課題

- 絶版の本を電子版で復活？
  - なぜ絶版になったのかを考える
  - 電子版も費用がかかる
- 便利さは活用したい
  - 自由検索、カラー化、動画、更新、コピー？
- 課題も多い
  - 閲覧権、寡占化、ビジネスモデル、絶版